

乃木坂スクール #7「発信力を磨いて福祉を変える医療を変える」

～現場から・ジャーナリストから・行政から～

13S3030 澤本幸子

平成 25 年 4 月 18 日 (木)

第2回 発信力の源は個人も組織も成長するワークライフバランス

(株) 東レ経営研究所 佐々木常夫氏

私の所属する看護の世界に於いて、ワークライフバランスという言葉が最近  
はよく使われる。しかし、そこで言うワークライフバランスとは「いかに女性  
が仕事を出来るようにするか」ということとして捉えられているように思う。  
時短のスタッフがどのような組み合わせなら業務ができるのか、仕事が終わっ  
てからの時間をどのように充実したもの出来るかといったことである。

しかし今回の先生の話聞いてワークライフバランスが個人も会社も成長す  
るものであり、仕事の改革があって初めてできるタイムマネジメントの上に成  
り立つことだと解った。そして、人生におけるタイムマネジメントを考えない  
と日々のことをこなすだけになってしまうと感じた。

私の現場を考えると、毎日の仕事をただスムーズに終了させることに誰もが  
一生懸命になっている看護現場になっていないだろうかと思う。私も看護課長  
として働く時、どれだけ仕事の中で必要なことは何かを考え時間の管理だけ  
でなく仕事の管理ができていのだろうか。日々を振り返ると個人も組織も成長  
できるものになっていない。ワークライフバランスという言葉だけが先行する  
のではなく共に成長できる現場に変えていきたいと思った。

実行するにあたりマネージメントする私が沢山仕掛け作りをしなければなら  
ないと感じた。特に部下力の強化に注力を注ぎたい。私が関わることでその時  
の現場が変わっても、異動により部署長が変わるとまた基にもどってしまうと  
いうことも見ている。その時々で必要とされるマネージメント力の違いもある  
だろうが、私がプレーイングマネージャーになってしまっていたことは無いだ  
ろうかと反省する。現場で一緒に動くことも時には必要だが相手を育て現場が  
成長しながら動けることも重要なのだと思う。

講義の中で仕事の効率化の両輪はコミュニケーションと信頼関係であるとあ  
った。本当にその通りであるが、更にこのコミュニケーションの中で次の人を  
育て組織の成長に繋げることが出来るようにして行きたいと感じた。

今回学ぶことのできた仕事の進め方の基本とタイムマネジメントはビジネス  
パーソンの基本というところにもう一度着目し自分自身の仕事を振り返ってみ  
たい。そして私自身の人間力を磨いて行きたいと思う。